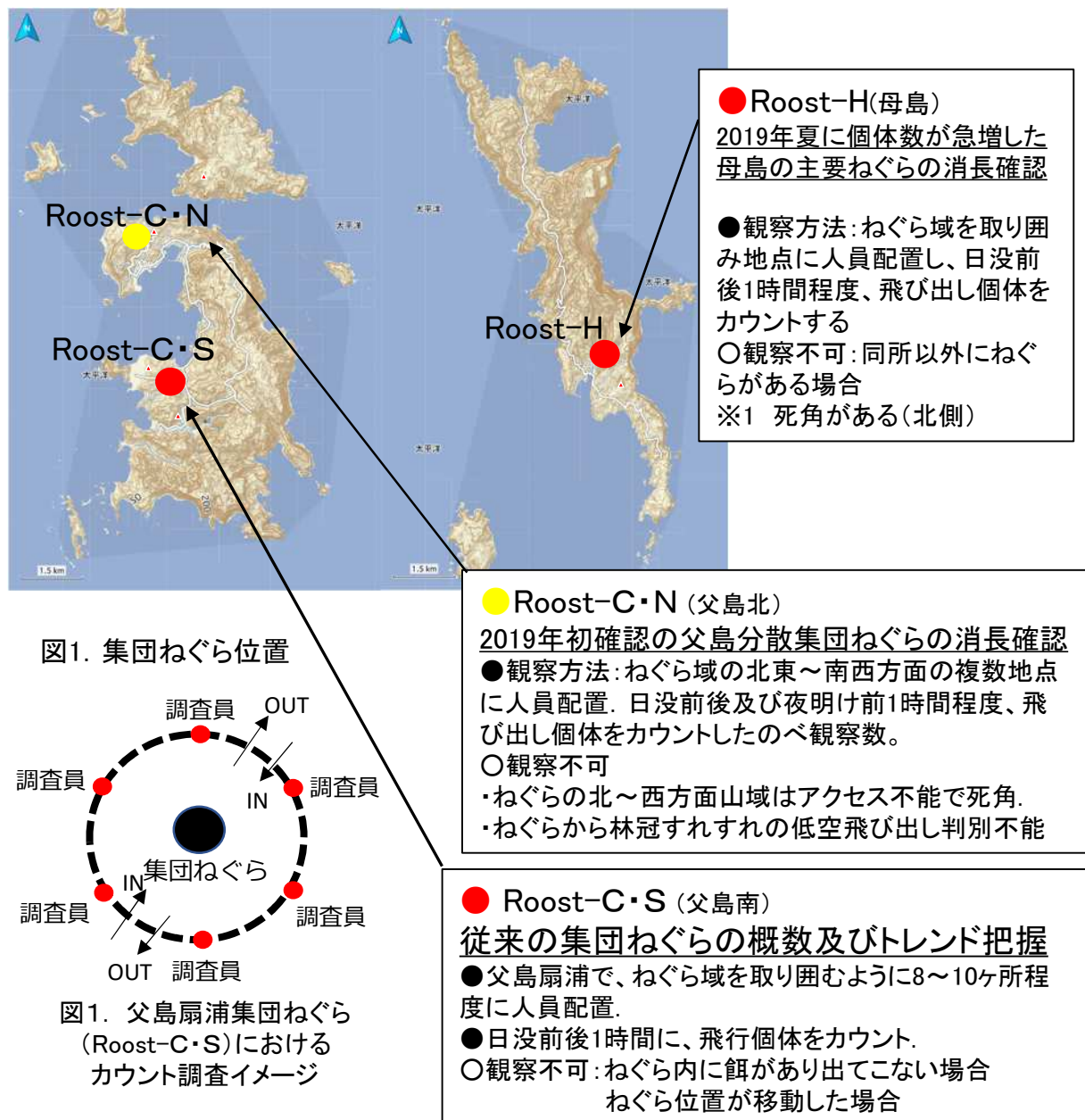


資料 1 : 個体数モニタリング

20250214_小笠原自然文化研究所(未発表)
オガサワラオオコウモリ保護増殖検討会用資料

小笠原自然文化研究所（以下IBO）独自事業2023 未発表資料

オガサワラオオコウモリの主要な生息地である小笠原群島・父島では、冬期(12月～3月頃)に特定地域に本種のほとんどの個体が集まり、集団ねぐらを形成することが明らかになっている(小笠原支庁2015ほか)。小笠原自然文化研究所では、この習性を利用して、ねぐら域と取り囲むように観察者を配置して、ねぐらから飛び立つ個体を日没前後に目視カウントする、個体数調査を継続している。一定の誤差は生じるが、外周を取り囲める同ねぐら域の立地条件により、過去(2001-2002年頃)に個体数の大きな減少を感知するなど(稲葉2002ほか)、経年トレンドを把握するのに適する方法と考えている。(現在、他の島々の生息状況・分布とともに投稿中)



文献: 小笠原支庁2015. オガサワラオオコウモリ保全調査委託総合報告書. 小笠原支庁.
稲葉ほか2002. 個体数が減少したオガサワラオオコウモリ保全緊急提言. 保全生態学研究.